

取組の柱③：多層的な連結性

事例③⑦：日本企業進出を呼び込む海外港湾整備・運営

1. 基本的な考え方

- 現地の産業発展や日本企業の進出への期待に応えるため、港湾を核とするインフラ開発を推進する。
- 我が国には鹿島港に代表されるように、臨海部の産業立地と港湾開発等を一体的に推進する「産業立地型港湾モデル」の成功事例がある。

⇒ 「産業立地型港湾モデル」のノウハウを海外に提案することで、港湾整備・運営及びその背後地への日本企業の進出を呼び込む。

2. 具体的な取組

● パティンバン港（インドネシア）

ODAで整備し、2021年に日本企業が設立した事業会社による自動車ターミナルの運営、現地に進出する日系メーカーの自動車の本格的な輸出が開始。

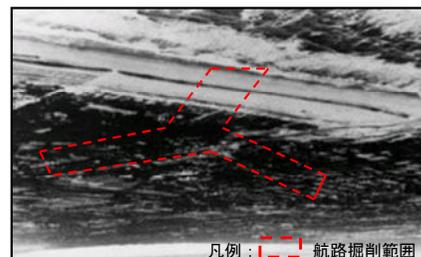
● ラックフェン港（ベトナム）

防波堤・航路等をODAで日本企業が整備（2018年開港）し、運営にも日本企業が参画中。また、同港周辺には日本企業を含む多くの企業が進出。

● モンバサ港（ケニア）

我が国企業の進出拠点にもなりうるモンバサ経済特区において、港湾、道路、電力、給配水等のインフラをODAで整備することに加えてSEZに係る税制見直し等を日本・ケニアの政府間対話を通じて検討予定。

■ 産業立地型港湾モデル（例. 鹿島港）



開発前の鹿島港（1963年）



現在の鹿島港

■ 具体的な取組



豊田通商 提供

自動車ターミナルの状況



コンテナターミナル